

所 信 の 表 明

礼文町長 小野 徹

本日、ここに新しく選ばれました議員各位をお迎えして、平成29年第2回礼文町議会臨時会を開催するにあたり、議員各位に心からお祝いを申し上げますとともに今後四年間の私の町政に対する所信を申し述べ、議員各位並びに町民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

去る6月20日に告示されました礼文町長選挙におきまして、本町初の四期連続無投票当選の栄に浴することができ、心から感謝すると同時に、あらためて責任の重さを感じているところでございます。

3期12年の実績を一定評価していただいたものと認識しておりますが、町民の皆さんは、決して現状に満足しているわけではなく、町内を回った時にも、町民の皆さんから激励を含む厳しいお言葉もいただきました。

よりよい町民サービスを、そして、地域がもっと元気にな

ることを願っておられます。

その責任の重さを力として、これまで以上に町民みなさんの思いと「声なき声」もしっかりと受け止め、安心して暮らせる「元気な礼文づくり」になお一層心を砕いて頑張っていくこと。そして「ふるさと礼文町」を築いてこられた先人の逞しい気概に学び、私に与えられた職責を全身全霊で務める決意であります。

そのためには、人と人とのつながりの大切さを痛感しており、町長として、いろいろな人と出会い、たくさんのご縁を大切に、礼文町の進むべき道を切り開いて行きたいと考えております。

さて、これまでの12年間、厳しい行財政改革に取り組みながら「元気のふるまちづくり」に努めてまいりましたが、今、地方創生の確実かつ有効な推進が求められております。

私たちは、昨年3月、わが町の地方創生総合戦略を策定し、人口減少をくい止め、私たちが生まれ、育ってきた「ふるさと礼文町」に、将来にわたって住み続けたいと思える魅力あるまちづくりをしようと決意をいたしました。

このたびの選挙においても、町民のみなさんに「地方創生にしっかり取り組み、未来に元気のタネをまいて、元気なふるさとを創る」と約束をいたしました。

私の思いは、「もっと若い人たちが安心して住めるようにする」ことであり、「子供たちの明るい声があふれる元気な町をつくって、人口減少に立ち向かう」ことでもあります。

まずは、総合戦略の第一期の取組成果目標として定めた平成32年度(2020年)の人口2,500人、この短期の目標達成のため、総合戦略にも掲げられているように、地方創生総合戦略を町民皆さんと共有しながら、必要とされることには優先して取り組み、島の未来は自ら切り拓くと云う強い意志と熱いふるさとへの思い、そして、気概を持ち、たくさんのご縁を大切にして、課題解決に向かって果敢に挑戦してまいります。

その上で、私が考える今後のまちづくりの考え方を申し上げます。

一、若者が魅力を感じる元気な島であるために・・・

4年前、私は、本町の基幹産業である漁業の生活基盤、環境を安定させなければ、若い漁業者の皆さんが安心して漁業に就くことができないという思いから真っ先に、若い漁業者の住宅問題と居住環境、それに子育て環境を改善しなければならないと申し上げ、議員各位のご理解をいただいて、他に類のない対策を講じることができたところでございます。

議員各位に厚く御礼を申し上げますとともに、この4年間で26名の漁業後継者が生まれました。これからも「生活支援」「住宅支援」「技術支援」の所謂「漁業支援三本の矢」をさらに充実発展させて、若い漁業後継者を増やし、島の漁業基盤を力強いものにしてまいります。

さらに、低迷を続ける観光の振興も必要です。お客様(観光客)を増やすには、観光に携わる人だけでなく、島のすべての人が、お客様の立場にたって親切丁寧にお迎えし、お客様に満足していただいて、また来たいと思っていただけるようにしなければなりません。

礼文島の観光は、自然に浸り、希少な高山植物や雄大な景観を目や肌で感じながらゆったりと楽しむことに醍醐味があると云われており、これに、「礼文島では誰でも自然にやさしい体験ができる」というサービスを整えることができれば満足度はさらに高まります。

「北のカナリアパーク」も毎年 3 万人を超える多くの皆さんにご利用いただくエリアの一つになりました。

ここを、もっとゆったりと時間を過ごせるように整備し、このエリアをトレッキングコースと結ぶ一大観光エリアにするとともに、トレッキングコースも利用度の高い一般的なコースから自然度の高いものまで段階的に管理されているコースづくりを行ない、若い観光客の皆さんにも自然や遊歩道などの観光情報を受けて、トレッキングに出かけることができるような滞在体験型観光を推進してまいります。

同時に、礼文島では、海と親しむ体験観光を推進することが必要です。漁協さんのご理解ご協力をいただいて、こども連れの方でも、浅瀬で、ウニやツブなどを採れる「海の観光農園」的な海と親しむ体験交流エリアを整備するなど、礼文

島でなければ体験できない「オンリーワン」を備えます。

さらに、民間の人たちの力をいただいて、「地域連携DMO」を設立し、着地型観光プロモーションの実施や「西海岸クルーズ」を復活させるなど、「稼ぐ力」を引き出す「観光地経営」に取り組む、観光分野での雇用の促進を図って、観光客で賑わう礼文島を復活させたいと考えています。

二、子育て・教育環境の充実～子どもは礼文の宝

二つ目が、「子供たちは礼文の宝」「町づくりは人づくり」と云われるように、未来を担う子供たちを育み、礼文高校の魅力化を進める「子育て環境・教育環境の改善、充実」であります。

未来を担う子供たちの笑顔は、「礼文の宝」です。お父さん、お母さんが安心して子供を産み育てることができるように、既に「妊婦検診の全額負担」と「フェリー運賃全額助成・宿泊費一部助成」、また、「出産祝い金」等の支給、ブックアイランド礼文をはじめとした「親子遊・ゆうスペース」の設置や高校生までの医療費の無料化を実施しており、さらに、

ふるさと納税を活用した保育料の無料化や放課後子ども教室を実施するなど、多くの子育て支援の改善拡充に努めてきましたが、今後も、保育環境、保育サービスの改善と放課後子ども教室の一年を通した全日実施をめざすなど、より安心して安全に子育てできる環境を整えてまいります。

また、本町は学校・家庭・地域が強い連携のもとに子どもたちの豊かな成長を願う「ふるさとに学ぶ・礼文学」と確実な基礎学力の定着を図る「礼文検定」の二本を柱に「保育所、小学校、中学校、高等学校の教育連携」という特色ある「礼文の教育」が行われてきました。今も、それは多くの皆さんのお力に支えられ、全国からも絶賛されております。

私は、このことに感謝しながら、教育委員会と連携して「校舎の耐震化100%」や「富士見が丘グラウンドの整備」等を進めてきたところでございますが、今後さらに、「心の豊かさ」や「地域に学ぶ」教育活動が推進されるよう老朽校舎の改善や教員住宅の改良等、教育環境の改善充実に努めてまいります。

中でも、礼文高校は島で唯一の高等学校であり、「保育所

～小中高教育連携の中軸」であります。したがって礼文高校は町の将来に欠かせない重要な存在との認識のもと、「魅力ある高校づくり対策検討会」の皆さんからいただいた提言をもとに、島の環境をいかした地域振興対策や教育の振興と次代を担う人材育成を行なうべく、首都圏や大都市圏等からの生徒募集とともに学力向上のための各種のシステムづくりを行うなど、魅力ある礼文高校づくりを進めてまいります。

三、「外貨を稼ぐ」雇用の場づくり・・・

三つ目は、若者の雇用の場拡大対策の積極的な推進であります。

礼文島の漁業水揚高は昨年初めて41億円を超えましたが、ここに民間の皆さんの柔らかな発想と豊かな経験で最新鋭の冷凍技術等を使って、地域の海産物資源を生かした新しい加工品の独自開発を行ない、礼文島ブランドの加工品を開発して、漁業水揚の41億円を50億にも60億円にもする努力が必要だと考えております。

新しい加工品の独自開発により「外貨を稼いで」、若い人

たちの雇用をつくり、お金が地域を循環するしくみをつくって、地域経済の活性化を図っていくという息の長い取り組みであります。

そこで、地域活性化には「漁村の6次産業化」が必要と云われていますが、漁村の6次産業化は、通常は、魚を獲る人が加工から販売までを一貫して行なうことを指しますが、礼文島では、魚を獲る人が加工、販売までの全てを行なうのではなく、地域全体で礼文町独自の「漁村の6次産業化」のしくみを考えるべきと思います。

「ふるさと納税」のお返しに活用することや観光土産品、礼文島のブランド品づくりなど、町民皆さんの長い時間と限りない熱意が必要となりますが、定住促進のためには若者の働く場、雇用場の拡大は欠かすことのできないものでありますので、獲った魚を別に加工する人、さらに加工した海産物を販売するしくみ、所謂「礼文島の6次産業化」という独自のしくみを創り、若者の働く場、雇用場の拡大をしたいと考えています。

また、加工品の独自開発だけでなく観光や商工部門にも「雇用を拡大」させる取組みが必要です。

低迷していた観光入込みも、ようやく回復の兆しが見えはじめました。

「カナリアパーク」や海と親しむ新たな施設で働く場を創出するとともに、DMOによる「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を築き上げる「観光地経営」という新たな視点で観光地づくりに挑戦し、観光分野でも雇用を創出してまいります。

四、安心づくり ～ 人にやさしい町

近年、地球温暖化の影響と云われるように、大型台風やゲリラ豪雨での山林崩壊や河川決壊による広域洪水、さらには地震や火山の噴火、大津波など、毎年のように大規模な自然災害が多発しており、このような自然災害に対し、これまで以上に適切な防災・減災が強く求められています。

わが町においても、3年前には「50年に一度」と云われた豪雨災害、また、暴風、高潮の被害もあり、加えて、四方

を海に囲まれた離島では、地震、津波への備えも喫緊の課題
となっています。これまでも津波に対する一時避難所の見直
しやシェルター式避難路の整備、高台に防災避難所や防災倉
庫を整備してきましたが、今後も計画的に整備を進めます。

また、今年 2 月には、新たに北海道の津波浸水予想が公
表されましたので、早急にわが町の防災計画や防災ハザード
マップを見直すなど、災害に強いまちづくりを進めます。

さらに、防災知識を有する専門職員(防災マネージャー)を
採用して、地域防災を強化し、町民皆さんの安心安全を向上
させる「人にやさしい」まちづくりを進めます。

おわりに・・・

時は今、今年から有人国境離島特別措置法が施行され、国
境の離島を無人島にしないことや国境の離島に住み続ける
ためのいろいろな施策ができるようになりました。 殊に、
「礼文島が元気な島であるためには」まだまだ課題は山積し
ており、「地方創生」のほかにも一人暮らしのお年寄りを地
域社会で見守っていくことや、福祉、医療、介護、保健はも

ちろん、教育、環境、ごみ処理、上下水道、道路、港湾、空港、漁港、防災など、離島で安心して暮らすためのサービスやインフラ等の整備はこれからも進めなければなりません。

特に、介護までの必要はないけれども、ひとりで暮らす高齢者の方や精神等に障害がある人たちなど、将来を考えると、こうした人たちが、これからも礼文で安心して暮らせる対策が必要と考えています。

したがって、私は、今後も財政の健全化と財源の確保に努め、礼文町の明るい将来のために、「定住の促進」「交流の促進」「安心安全の向上」とともに「産業の振興」「子育て支援の拡充」「雇用機会の拡大」「滞在体験型観光の促進」等を図り、産業を振興させて若い人たちの働く場、雇用の場を増やし、地域の経済力を高めて、町民皆さんの生活を支える社会基盤を確保し、安心して暮らせる町づくりを進めてまいります。

12年前に掲げました「元気な礼文づくり」の想いは、今も、私の心の中に強く大きく灯っており、先人が築き上げてこられたふるさとに誇りを持ち、住んでよかったと誇れる活

力あふれる元気な礼文にすることが私の願いであります。

愛する家族のために、お世話になった地域社会のために、そして、ふるさとの限りない発展のために「礼文町の未来に元気のタネ」をまき、次の世代に誇りと自信を持って引き継いでいける「夢と希望に満ちた元気な町」「住んでよかったと誇りに思えるふるさと」を創り上げることであります。

礼文に住む人たちが「この町は住み良い」と実感し、「心豊かに暮らす」ことができれば、おのずから人が集まり人口が増えると思います。

まさしく、これこそが「地方創生」であり、あの有名な孔子の教え、「きんじゃえつえんじやらい近者悦遠者来」（「近き者悦べば遠き者来る」）の考えもそこにあると思っています。

私は、今一度、初心に帰って、こうしたまちづくりに全力で取り組む決意であり、基本はいつも「私達の仕事は、町民皆さんの幸せのためにあり、住んでよかったと誇りに思えるふるさとを創り上げること」であると考えています。

これからも、「今、何をすべきか」をご提案申し上げ、議員各位並びに町民の皆様とともに「元気な礼文づくり」を進

めてまいります。

議員各位におかれましても、ともに「元気なふるさと」を築くため、尚一層のご支援ご協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます、私の所信といたします。